

「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」モデル校の取組

東日本大震災から5年になります。これまで、管内の各小・中学校では、特色ある復興教育の推進が図られてきました。これらの学校の中で、今年度は、奥州市立玉里小学校と一関市立興田中学校が「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」モデル校として取組を行いました。今回は、この2校の実践を紹介します。あわせて、これからの復興教育の取組の方向性についてお知らせします。

玉里小学校の実践

1 目標

学校教育全体の中で復興教育副読本を効果的に活用し、被災地復興支援、県及び市の発展に向けての意識化と実践的な行動力「生きる力」を育む。

2 取組

- (1) いわたの復興教育副読本の効果的な利用
 - ・ 年間活用計画の作成
 - ・ 防災に関する家庭・地域等への授業公開
- (2) 副読本を関連させた教育課程の編成
 - ・ 各教科・領域等と関連させた「全体年間指導計画」の作成
- (3) 地域連携による防災教育の実践
 - ・ 講演会の実施とワークショップの開催
 - ・ 三世代交流時の避難訓練
 - ・ 災害を想定した引渡し訓練と関係機関と連携した下校訓練



3 成果

- ・ 教科・領域等と関連つけた指導となった。
- ・ 考え、判断する機会を設定することで、防災意識を高めることができた。
- ・ 地域と「かかわる」防災の取組をとおして、「そなえる」等に関する実践的態度を育てることができた。



興田中学校の実践

1 目標 (今年度の重点)

地域を知り、地域と関わり、郷土を愛する心を育み、郷土の未来を支える一員となる自覚を育てる。

2 取組

- (1) 地域を知り、関わる活動の実践
 - ・ 特産物に係る震災の影響と地域振興の学習
 - ・ 災害図上訓練及び現地視察
- (2) 被災地との交流学习
 - ・ 被害とその後の努力や課題を聞く活動
 - ・ 復興カレンダー制作と被災地での写真展開催
- (3) 郷土を支える一員となる活動の実践
 - ・ 小・中学校合同避難訓練等と防災メモの作成
 - ・ キャップハンディ体験活動とディサービスとの交流
 - ・ 防災パンフレットや文化祭での啓発



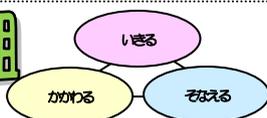
3 成果

- ・ 被災地や地域との関わりから、自己の生き方を考え、積極的に思いを伝えることができた。
- ・ 地域とのつながりを実感し、助けられる人から助ける人へと意識転換する一助となった。
- ・ 様々な視点から防災について考えることができた。



これからの復興教育の取組

第3期アクションプランより



目指す姿：「いわての復興教育」の理念と「【いきる】【かかわる】【そなえる】」という3つの教育的価値が定着している。特に、様々な自然災害等に【そなえる】教育活動（防災教育）の充実により、自他の生命を守りぬく力と「共助」の精神を兼ね備え、地域防災の活動に積極的に参加するなど、いわての復興・発展及び地域防災を支える人材が育まれている。

指 標：教育計画の中に様々な自然災害等に「そなえる」教育活動（防災教育）を具体的に取り入れて再構築した学校の割合 [H27:70%、H28:80%、H29:90%、H30:100%]

実践的な防災教育を中核とした「いわての復興教育」の推進

- 実情に応じて復興教育の活動を効果的に行うためのカリキュラムを作成し、「実践」「見直し」「改善」を図りながら3つの教育的価値を育てる。
- 校内や各地域において中心となる指導者を養成する。
- 小・中・高を通じて、自他の生命を守る力を育成するとともに、将来の地域防災の担い手を育成する。
- 学校、家庭、地域、関係機関の連携による防災体制の強化及び実践的な防災教育の展開により、学校・地域の防災力の向上を図る。